

第6分科会 幼稚園教諭に求められる役割～共に育つ保育者～  
ねらい

保育者としての心構え、職場での人間関係、保護者と築く良い関係等々についての指導講話を通して、教員に求められる役割について考える。



講師

元大阪府茨木市立幼稚園 園長 米谷美和子 様

■ 保育者としての心構え

・ 保育者は子どもを取り巻く環境の一つであることを意識する。

- ① いつも笑顔を忘れない。笑顔は大きな親切。
- ② 人にもものを頼まれる人間になる。
- ③ 掃除を丁寧にする。綺麗な保育室で子どもを育てる。  
➡ 心も磨かれる

・ 幼児と関わる保育者の働き

- ① 精神的安定のよりどころ・・・何があっても受け止めてくれる、好きでいてくれる安心感。
- ② 憧れを形成するモデル・・・憧れられる保育者であること。
- ③ 共同作業者・・・共に保育をつくる。
- ④ 理解者
- ⑤ 遊びの延長者・・・遊びをたくさん知る。発展させる。

・ 勤務について大切なこと

- ① 情熱 ② 責任感 ③ 判断力



■ 職場での人間関係

- ・ 自分の選んだ仕事に誇りをもつ・・・「私にしかできないこと」
- ・ 先輩の姿勢に学ぶ・・・見て、聞いて、学ぶ。
- ・ 節度ある姿勢で(マナー)・・・保育者としての言動、服装、立ち振る舞いを意識する。

■ 保護者と築くよい関係

- ・ 率先垂範はまず保育者から
- ・ 子どもを中心に信頼関係を

《保護者対応のポイント》

- ① 最後まで聞く(きちんとした態度でしっかり頷く)
- ② 日頃からしっかり家庭と連携を。
- ③ 個々の育ちよりも集団の中で育つものの大切さを知らせる。
- ④ 園の特色をしっかり伝えておく。

★ 子供を真ん中に据えて家庭と園とで共に育つ。



## ■ 保育者としての研修の意義

### ◆ 5つの喜びを与えてやりたい

- ・あそびの よろこびを・・・遊び=学習・生活・人間関係を学ぶ場
- ・いきる よろこびを・・・食が基本(食べ物で頭や心、性格も形成される)
- ・うみだす よろこびを
- ・えほんでまなぶ よろこびを・・・★1日1冊よみとどけをする。



見えない学力(感性、情感、想像力、語彙力)を育てる。

- ・おんがくの すばらしさを かんじる よろこびを・・・音楽=幼児期に育てたい感性が磨かれる。

### ◆ 5つの自己研鑽をめざして

- ・感性と心情を豊かに・・・様々な体験をして自分を磨く。
- ・記録の大切さ・・・記録を生かし、次に繋げる。
- ・工夫のある保育・・・子供の興味(内面理解、言動)に沿った保育をする。教材研究をする。一番苦手な子に焦点に向けた準備をする。
- ・健康こそ第一・・・睡眠、食事
- ・子どもを見る眼・・・個性が伸びるような環境作りや指導を心掛ける。

## ■ 感想

当初、分科会は2部形式で後半は質疑応答の予定であったが、米谷先生のおふれるような講演に一同引き込まれ、気がつくやうに2時間が経っていたというような状況で、もう形式を気にされずに、一度休憩をはさんだのち最後まで先生のお話を聞かせてもらった。

実際に、保育現場で子どもたちを見てこられた先生は子どもたちを、こよなく愛しひとりひとりの心に響く保育をしてこられ、子どもたちの一番の理解者であるとともに、その大切な幼児の指導に携わる私たち保育者への指導にも力を注いでこられた強い信念をひしひしと感じることができた。

教諭、園長を経て、現在まで半世紀にわたり幼児教育にかかわってこられた米谷先生の深い思いとかわいい子どもたちとのエピソードが泉のように湧き出てくる本当に楽しい、素晴らしい講演であり、まだまだ聞いていたい思いの内に残念ながら時間となり、第6分科会は終了した。



報告者：学校法人桃山学園

小松原幼稚園 教諭 小河内 聖子  
教諭 村田 優香里